

石川県能美市内（旧寺井町・長野校下）における
獅子舞の現状および伝承について

The Current Situation Regarding the Passing Down of Shishi-mai
(Ritual Dance by a Performer with a Lion Mask) in Nomi City, Ishikawa

道下 知子
Michishita Tomoko

1. はじめに

日本各地では正月・春祭り・秋祭りなどの行事の際に、獅子舞が行われてきた。日本の獅子舞には、伎楽（ぎがく）の流れを汲んでいるものと神楽（かぐら）の流れを汲んでいるものがあり、伎楽の流れは、推古天皇時代に百済から入ってきた獅子舞が仏教の伝播とともに西日本を中心に伝わったものとされている。一方、神楽の流れは江戸時代の神社信仰から伊勢や熱田を中心とした様々な神楽が生まれ、神官や神楽師が広めたものとされている。それらが伝わった地域ごとに独自に継承され、発展・進化したものの一つが獅子舞と言われている。この研究では、私の在住地である石川県能美市内の旧寺井町・長野校下ⁱ（現：大長野町、小長野町、小杉町）の獅子舞について調査した結果を報告するものである。

2. 能美市の獅子舞について

能美市内での秋祭りは神社を中心に行われ、巫女舞と獅子舞が併せて実施されるケースが多い。その舞の音楽や踊りなどは各地域によって異なり、地域ごとの創意工夫が反映されている。運営方法や伝承方法についても地域によって特色がある。

獅子舞に関しては、伝統的な加賀獅子のスタイルを継承しており、大きな獅子頭を筆頭に「カヤ」と呼ばれる胴体に複数名が入り、大きく迫力のある獅子となっている。もう一つ、「棒振り」という獅子に対して戦いを挑むのも加賀獅子の特徴といえる。棒振りも一人から複数名と地域によって人数が異なり、最後は獅子を退治するという終わりで獅子舞が終了する。同じ石川県内の能登獅子は小型で獅子頭も小さいことが多く、全く別のスタイルであることが明らかである。

地区によっては子ども会や小中学生といった子どもが運営のメインとなる場合や、地区の成人（男性が中心）が中心となっている場合があり、隣接する町同士でも全く異なるやり方をしている。

具体的な始まりに関しては、明治初年ごろ、江沼郡（現在の加賀市山中町）に出稼ぎにいった粟生村（現在の能美市粟生町）の若者が、石川郡野々市町（現在の野々市市）の若者に棒振りを習ったことが始まりではないかと伝えられている。この粟生町の獅子舞は近隣の町が演舞を習いにくることが多く、能美市内の各獅子舞に大きな影響を与えたと考えられる。

大きな共通点はあるものの、各町の違いがある獅子舞はコロナ禍を経たことで伝承がストップし、実施ノウハウが消滅しかかっている地域がいくつかあったことも明らかとなった。

3. 能美市寺井地区長野校下の獅子舞について

以下では、各町の獅子舞の詳細について記載する。

大長野町の獅子舞について

大長野の獅子舞の担い手

現在の大長野町には 670 世帯、1785 人が住んでいる。

獅子舞は中学校 PTA が中心となって進めており、小学生も四年生以上が参加している。特徴としては中学生も小学生も男子のみが参加となっており、運営をする保護者も男子保護者のみとなっている。2024 年度は約 80 名の小中学生が参加し、9 月 22 日（日）に雨天の中実施された。

大長野の獅子舞の構成と演目

（一）構成について

獅子と囃子の 2 パートで構成されている。

獅子…獅子 2 名（二人立ち獅子：前方・後方）、棒振り 1 名

獅子と棒振りは中学生男子が演じる（図 1－1）。棒振りは獅子舞のメインのような立ち位置となっており、棒振りをする本人宅や親戚・近所の家では、その本人が自ずと棒振りを務めることが多い。

囃子…太鼓 1 名、笛（リコーダー 若干名）

太鼓は中学生男子が担当し、笛は小学生が務める。小学校で使用するリコーダーを使用している。

中学生は町で保管している黒地に花柄の法被と薄ピンクのタスキ帯、小学生は自前の『祭』と書かれた青色の法被を着ており、腰には『ケンタイ』と呼ばれる石川県の獅子舞独特の『若』と書かれたエプロンのようなものを巻いている。

（二）舞の演目、内容について

毎年受け継がれてきた太鼓と笛のメロディに合わせて舞うが、棒振りが獅子と戦い、最終的には「獅子殺し」と言われる最終的に獅子が動かなくなるところまでが演じられる。パリエーションはなく、若干激しい印象の一曲のみが受け継がれている。

大長野のコミュニティにとっての意義

大長野の獅子舞の起源はいつなのかは不明だが、長く続けられてきたことは明らかだ。

世帯数が増え続けてきた地区のため、いつからか三体の獅子が同時進行で獅子舞を行うようになった。

練習は夏休みのお盆明けから行われており、お盆明けの夕方から夜 9 時ごろまで、小中学生が集まり練習をする姿が恒例となっている。

大長野で生まれ育ち、現在中学生の保護者となった K 氏によると、『小学生のころは中学生の先輩がとても大人に見え、礼儀などの作法も小学生のうちに獅子舞で学んだ気がする。』ということだった。また、同様の立場で 2023 年度に保護者として獅子舞を取り仕切った A 氏は『最近の子は元気がないと思って練習時に挨拶をするように指導したが、全く伝わっている感じがしなかった。でも、獅子舞当日になると、子どもたちが自然と声を出すようになり、町のあっちからもこっちからも獅子舞の掛け声が聞こえてきて、「まだ大長野のモンは元気や」と感動した。』とのことだった。

一方で、新しく宅地になった地域の住民と代々住んでいる人が多い地域の住民では温度差があることも事実だ。前者の地域に獅子舞に行っても、獅子舞を依頼してくれるのは十数軒あるうちの数軒のみだったということもあり、以後の課題とも語ってくれた。金銭的な理由（獅子舞をお願いした家は、花代として 1,000～3,000 円程度を獅子舞をしてくれた子どもたちに渡す）もあるかもしれないが、そもそも近所づきあいが希薄だったり、交流を拒んでいたりするケースもあるので、担い手存続の面でも課題は出てきそうである。



図 1-1 大長野の獅子舞



図 1-2 大長野の獅子頭

小杉町の獅子舞について

小杉の獅子舞の担い手

現在の小杉町には 179 世帯、467 人が住んでいる。

獅子舞はその年の初老男性が中心となって進めることになっており、小学校 4 年生～中学生全員が参加する。2024 年度は約 20 名の小中学生が参加し、9 月 14 日（土）に実施された。

小杉の獅子舞の構成と演目

(一) 構成について

獅子と囃子の2パートで構成されている。

獅子…獅子3名（百足獅子：獅子頭1名、胴体2名）

獅子は中学生男子が演じる。獅子の足を意識してのことか、必ず白いズボンを着用することになっている（図2-1）。

囃子…太鼓1名、笛（獅子と太鼓以外の小中学生全員と保護者）

太鼓は中学生男子が担当し、笛は小学生が務める。自前の横笛を吹いており、初めて参加するときは笛の音を出すことが難しいとのことだった。小学生の人数が年々減っていることから、横笛が吹ける保護者や高校生なども自主的に参加している。

中学生男子は全身白色の服、そのほかの参加者は私服で参加している。

(二) 舞の演目、内容について

太鼓と笛の音色に合わせて獅子が舞う。能美市の多くで見られる獅子殺しではなく、獅子が笛の優美なメロディに合わせて動き、メロディの終わりと共に大人しい獅子がそのまま地面にうずくまることで舞が終わる。

小杉のコミュニティにとっての意義

能美市の獅子は粟生地区の獅子舞をルーツとしていることが多いが、小杉の獅子舞は小松市龍介町をルーツとしているとのことだった。今でも龍介町から毎年講師が来られ、日本舞踊のような踊りを子どもたちに指導している。

また、主体が初老の男性ということも特徴で、親子三代で小杉町に住むS氏によると、『獅子舞の当番が来ることで、自分も年を取ったことを実感した。』と一種の通過儀礼のようなものになっていることも伺える。

また、獅子舞の演目自体が優雅な雰囲気であることや、女子も参加し獅子殺しもないということから、他の地区に比べて穏やかな雰囲気で獅子舞が行われていることも印象的だった。



図2-1 小杉の獅子舞



図2-2 小杉の獅子頭

小長野町の獅子舞について

小長野の獅子舞の担い手

現在の小長野町には 208 世帯、533 人が住んでいる。

獅子舞はその年の中学校 PTA が中心となって進めている。小学校 1 年生～6 年生と中学生男子全員が参加する。2024 年度は約 40 名の小中学生が参加し、9 月 16 日（月・祝）に実施された。

小長野の獅子舞の構成と演目

（一）構成について

獅子と囃子の 2 パートで構成されている。大獅子と小獅子の 2 種類がある。

大獅子…獅子 2 名（二人立ち獅子：前方・後方）、棒振り 1 名（図 3－3）

小獅子…獅子 2 名（二人立ち獅子：前方・後方、獅子頭は手に持つ）、猿 2 名（図 3－2）

大獅子と棒振りは中学生男子が演じる。獅子の足を意識してのことか、必ず白いズボンを着用することになっている。小獅子は小学校高学年、猿は小学校 1・2 年生が演じる。

囃子…太鼓 1 名、笛（リコーダー 小獅子以外の小学生全員）

太鼓は中学生男子が担当し、笛は小学生が務める。リコーダーは 2 曲あり、特に大獅子が激しいメロディのため習得が難しい。

中学生男子は全身白色の服、小学生は町が保管している『祭』の法被を着ている。いずれも男子のみがケンタイを腰に巻いている。猿役の小学校低学年は町が 60 年近く保管している衣装を着て、顔に白塗り・眉・赤アイシャドウの化粧を施している。（図 3－1）

（三）舞の演目、内容について

太鼓と笛の音色に合わせて獅子が舞う。大獅子は棒振りと戦い、戦いの合間に獅子が各家の玄関先に出向き、口をパクパクさせる。これには邪気払いの意味があるのではないかと考えられている。最終的には獅子殺しで終わる。

小獅子は、猿役 2 名とくるくる回って踊るという印象が強い。最終的には向かい合って、獅子は頭を振る、猿は手に持った鈴付きの棒を手を振るように動かすことから、戦いというよりはじゃれあいのような印象を受ける。

小長野のコミュニティにとっての意義

何よりも 2 つの獅子のバリエーションがあることから、獅子舞が町民から愛されている。小獅子の踊りは人気があり、各家でどちらの獅子にするかリクエストをするのだが、放っておくと全ての踊りが小獅子になるほど特に老人から人気がある。獅子舞そのものの起源が不明だが、小獅子の起源は昭和 30 年代と言われており、自身が経験した人の孫が踊るケースもあり、懐かしさを感じるとのことだった。

新しく宅地となった地域でも、小学校低学年の獅子舞はすんなりと受け入れられるよう

で、小長野町に引っ越してきた若い世代からも『いずれはうちの子も踊れるんですか?』と聞かれたこともあるそうだ。

小長野町に長年住んでいる Y 氏は『小長野の子は小さいときから他の地区に比べたら仲が良い気がする。小獅子で小さい頃から獅子舞に参加するからそうなのかもしれない。』とコメントしてくれた。また、2023 年に中学校 PTA として獅子舞を取り仕切った N 氏からは『自分たちが小学生のころは本当に先輩が怖かったけど、しっかり教えてくれたし面倒も見てくれた。大人になっても壮年団や町会で再会してもすんなり打ち解けられるのは、獅子舞を経験したからかも。』ということだった。



図 3-1 猿役の子どもたち



図 3-2 小長野の小獅子



図 3-3 小長野の大獅子

まとめ

能美市寺井地区長野校下の獅子舞について考察したが、車で数分の距離の三町で大きく獅子舞の文化が異なることがわかった。

共通点としては、①秋の祭礼行事の一環であること、②小中学生が獅子舞の中心となり、何かしらの教育効果が認められること、③それぞれの地区のアイデンティティの一つとなっていること、が感じられた。

しかし、構成や舞といった獅子舞そのものはほとんど類似しておらず、またインタビューをする中で、他の地区がどのような獅子舞をしているかを全く知らないということも明らかとなった。(例えば、私は『小長野はこんな獅子舞で…』という話を大長野・小杉各町ですると、『知らなかった』というようなことが何度もあったため。)

少子化や多様性が重んじられる社会の中で獅子舞を継続していくことは簡単ではなさそうだが、始まりが不明な程、何十年も続けられてきたこの文化を消してしまうことは大変惜しい。今回の考察を残すことで今後の獅子舞継承のきっかけの一つとなることを強く願う。

参考文献

石川県教育委員会（昭和六十一年）『石川県の獅子舞 獅子舞緊急調査報告書』

石川県立歴史博物館（平成十年）『獅子頭』

能美市人口動態（令和六年）

ⁱ 一般的には「校区」と呼称されているが、石川県においては同意語として「校下」と言う言葉が一般的に使用されている。本稿においては石川県の文化について研究を行っていることから、「校下」を「校区」と同様の取り扱いとしてあえて使用することとした。